



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○算数科の習熟度別指導を行い、基礎・基本の定着を目指す。 ○体験的・問題解決的な指導を重視する。 ○地域の人材や教材を授業に生かす。 ○話し合い活動や伝え合い活動を充実させた授業を展開する。 ○ICTを活用し、視覚や聴覚など、様々な視点で学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3～6年生は週に2回、朝のモジュール学習を行い、基礎的・基本的な知識および技能の定着を図る。 ○読書旬間、パワーアップタイムを実施する。栄養教諭や調理員と連携し、食育についての学習を行う。 ○異年齢集団や隣接学年などの交流を日常的に取り入れ児童の好ましい人間関係を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活科・総合的な学習の時間」の研究を基に、年6回の研究授業を行い、「すすんで学び、考えを広げ深める子の育成」を目指す。 ○1～3年次の教員による1人3回の研究授業および協議会や主幹教諭、主任教諭によるミニ講座など、OJT研修を充実させることで、基本的な授業の進め方について全員で再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や諸活動の中で、随時適切な評価を加え、その結果を指導に生かす等、指導と評価の一体化を目指す。 ○学習の中で、児童が相互評価、自己評価をし、それを基に新たな課題を設定できるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業を含め授業公開を実施する。 ○学校公開の保護者の感想や外部評価を授業改善に生かす。 ○保護者・地域の方々に講師にした体験学習を充実させる。 ○学校評議員による学校運営への参加を進める。 ○保育園・幼稚園と1年生の交流を深め、児童が入学時にスムーズに生活できるように連携をする。 ○キャリアパスポートを活用し、家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区別協議会の協議内容を生かし、中学校での学習を意識した学習活動を行う。 ○9年間を見通した課題改善カリキュラムを作成し、活用する。 ○道徳、外国語を重点とし、9年間を見通した教科指導の連携を図り、効果的な指導を工夫する。

◎授業改善の検証方法：東京ベーシック・ドリルを活用した学期に1回のテスト結果による分析。ワークテストや小テストの結果による分析。児童・保護者による学校評価(年1回)の実施。教員による自己評価(年2回)の実施。